

新執行部発足にあたって

昨年十一月の評議員会で、福島会長が再選され、地区選出の理事十名を除く、副会長、理事、監事の人選を一任された。そして別掲のようなスタッフで一月一日より新執行部が発足した。(ただし、地区選出の理事中六名は未決定)

そこで、新しい執行部の当面の目標をつぎの三つに定め努力することになった。

一、本年は母校創立八十周年と、血脇先生生誕百年祭が行われるので、本会としては、積極的に支援できる態勢を整える。これについては、早速委員会を設けて万全を期したい。

一、従来の医政部が新会則では、渉外部と呼称されることになったが、これは、医政を含めてより幅広い活動を期待するものである。そのために、全国同窓の衆知を集める。例えば、医政懇談会とか、地方会員の集合を考えている。

一、会員の福祉共済の拡充をして、その増進について具体的に検討して実施できるようにしたい。

なお、このほか新会則の正しい運営により、本会の一層の発展を願って一丸となって前進したい考えである。

会員各位の絶大なご協力を願ってやまない次第である。

元旦恒例の新年交換会開かる

昭和四十五年元旦、午前十一時より母校第一教室において、約百名の同窓が参集して、恒例の新年交換会が開かれた。

松井教授の司会で国歌斉唱のあと、杉山学長、大井新副会長(福島会長病気のため)よりそれぞれ年頭のご挨拶があった。ついで河村弘前同窓会長の音頭で乾杯。引き続き海外出張より帰国されたばかりの関根弘教授、台湾に出張される山本、米沢両教授の挨拶があり、町田教授が謡曲「羽衣」を高らかにうたいあげ新春の寿を祝福した。参集者はお互になごやかに新年の詞を交しあった。この間鹿島参議院議員の挨拶などあり、榎本名誉会長の音頭で母校、同窓会の万才を三唱して十二時おひらきとなった。

お知らせ

二月講演会

日時 二月二十二日(日)午後一時半より

会場 母校第四教室

演題 「七十年代の補綴を考える」

講師 羽賀通夫教授

補綴診療の分野においても、咬合論その他幾多の問題点を残したまま70年代を迎えた。それらのうちのいくつかを取り上げて将来の補綴を考えてみたい。(演者自抄)

右のような主旨での講演です。一歩さきの補綴を具体的に知る絶好の機会です。奮って御参集の程お願いします。

東京歯科大学学会(例会)

二月二十一日(土)午後一時より 於 母校教室

卒業証書授与式

東京歯科大学三月二十五日(水)午後一時三十分より

東京歯科大学歯科衛生士学校 三月二十七日(金)午後一時より

『日曜セミナー』 『夏期講習会』

今年も例年通り日曜セミナーならびに夏期講習会を開催する予定です。年間スケジュール及び詳細について、追って本紙に発表します。

役員紹介

(あいうえお順)



会長 (留任)
福島 秀策
大正五年卒



副会長 (新任)
大井 清
大正十二年卒
(東京都)



副会長 (留任)
井上 真
大正六年(東海)
卒(東京都)



副会長 (新任)
高木 健吉
昭和二年卒
(広島県)



副会長 (新任)
林 武夫
昭和五年卒
(北海道)



常任理事 (留任)
総務担当
安嶋 宣忠
昭和十四年卒



常任理事 (留任)
学術担当
木村 吉太郎
昭和十年卒



常任理事 (新任)
広報担当
木村 哲男
昭和十六年十二月卒



常任理事 (留任)
共済担当
佐藤 貞勝
昭和十八年九月



常任理事 (新任)
会計担当
坂登 輝夫
昭和三十三年卒



常任理事 (新任)
共済担当
津島 秀雄
昭和二十八年卒



常任理事 (留任)
渉外担当
清藤 志郎
昭和十五年卒



常任理事 (新任)
会計担当
高木 圭三郎
昭和十年卒



常任理事 (新任)
渉外担当
長岡 寛伯
昭和十四年卒



常任理事 (新任)
総務担当
並木 俊雄
昭和二十九年卒



常任理事 (新任)
総務担当
福岡 明
昭和二十三年卒



常任理事 (新任)
渉外担当
山崎 文男
昭和二十二年卒



常任理事 (留任)
学術担当
山本 為之
昭和十六年卒



常任理事 (留任)
広報担当
渡辺 富士夫
昭和十七年卒



理事 (新任)
九津 見侃
昭和二十年卒
(北海道地区)



理事 (新任)
高田 直秀
昭和八年卒
(東北地区)



理事 (新任)
斎藤 静三
昭和四年卒
(関東地区)



理事 (新任)
正岡 建夫
昭和十五年卒
(四国地区)

なお、他の六地区より選出される理事は未定である。
(一月二十日現在)



監事 (留任)
大塚 豊美
大正元年(医)学
校卒



監事 (留任)
大西 栄蔵
大正十二年卒

新役員会並びに引継ぎ会

新執行部は別掲のように副会長理事、監事を決定し、第一回の理事会が一月十七日、母校クラブ室で開催され、当面の必要事項が協議され、第一足を踏み出した。
同日、理事会後、新旧役員により引継ぎの会が開かれ、とどこおりなく引継ぎが行なわれた。

本部短信

一月一日 新年交歓会
一月七日 北多摩支部総会
大井・井上両副会長
・清藤理事

一月一〇日 日黒区支部新年会
大井副会長

一月一日 愛知県支部連合会
大井副会長・清藤理事

一月二日 京橋支部新年会
大井副会長・長岡理事

一月三日 千代田支部新年会
大井副会長・清藤理事

一月四日 世田谷支部新年会
大井・井上両副会長
・渡辺理事

一月七日 神奈川支部新年会
渡辺理事

一月八日 日歯役員代議員連絡協議会

一月二四日 京北同窓会総会
大井副会長

一月二四日 品川支部新年会
安嶋副会長

一月二六日 芝支部新年会
井上副会長

一月二八日 六歯科大学同窓連合会

◆支部長
品川支部長 栄一
荏原支部長 22103 塩津
豊島支部長 2210 小林 俊雄

◆入会者
東信支部 小池ちよ江
墨田区支部 28勝山 和夫
診療室火災

◆逝去会員

- 44 鈴木秀次郎 昭二・八 新潟県
- 推細見 佐作 昭一・四 大阪府
- 推朝村 栄一 昭三・三〇 大阪府
- 8 中川 達雄 昭四・二・三〇 練馬区
- 5 大秋山 基二 昭三・六 神奈川県
- 3 戸辺亮三郎 昭三・六 千葉県
- 大 今井 芳蔵 昭三・三 京都府
- 推大森 春吉 昭三・三 大分県
- 8 中根 朝治 昭三・三 山梨県
- 推五条万次郎 昭三・三 静岡県
- 3 大酒泉 健夫 昭三・三 京都府
- 8 大秋田 勉 昭四・四 群馬県
- 7 大今里 文夫 昭四・九 長崎県
- 元 大杉本 昇二 昭一・六 新潟県
- 推高田 幸雄 昭一・二 南信
- 名平松 円次 昭一・八 三重県

岡本歯学研究所

研究施設として認定さる

岡本歯学研究所は大学院歯学研究所委員会において東京歯科大学学位規定運用内規そのⅢの6-1dに該当する研究機関として、一九六九年一月二十九日付をもって認定された。

同研究所は、鳥取県米子市加茂町一丁目三十六番地に所在し、所長は医学博士岡本治氏(一九三六年本校卒)で、所長を含め、研究スタッフ三名、研究会員および協力者九名の陣容を擁している。研究資料として入手源明記の第三大白歯一、〇〇〇歯、小人症口腔模型一〇〇〇例、抜去歯牙一〇万歯、その他、過剰歯、埋伏歯、エナメル小滴、異常歯、健全歯など多数の貴重標本を所蔵している。また歯学雑誌各種および参考書多数を備え、発表業績数も約五〇篇の多きにのぼっている。施設面積三四七・〇九平方メートル。

海外往来

(1)小笠原診療班 東京都からの依頼で、小笠原父島住民の歯科診療のため四四年一月二〇日(一二月二六日、遠藤義弘(補綴)磯泰巳(保存)の両氏が出張することとなり、一月二〇日出向した。

(2)坂田三弥教授(生理) 坂田教授は四四年度大学派遣者として去る一月一三日米国に向け出発した。同教授はペンシルベニア大学医学部生理学教室において「歯髓痛覚受容器の電気生理学的研究」を

Dr. D. Scott 氏と共同で研究することとなり、約三カ月彼の地に滞在し、その間ホルノルにおける日米科学協会の「三叉神経機能に関するセミナー」(一九七〇、一、一九一―一九七〇、一、二二二)に、

メンバーとして出席し、今年二月一六日羽田着一九時五五分帰国の予定である。

(3)河辺清治氏帰国 本学非常勤講師河辺清治氏は、日本学術会議ならびに日本歯科医学会より派遣され、去る一〇月三日から三〇日間ニューヨークにおいて開かれた国際歯学連盟第五七回年次大会に出席するため去る一〇月三日に出発したが、さらに欧州諸国の歯科事情を視察して一二月三日夜羽田着無事帰国した。

(4)関根弘教授(補綴) 四四年八月二四日欧米に出発した同教授は任務を終えて十二月二九日に元氣に帰国した。

(5)米沢和一教授、山本義茂教授、米沢、山本両教授は台湾歯科医学会に特別講演のため一月二日羽田を出発し、十四日に無事帰国された。

(6)Zipkin 教授特別講演 カリフォルニア大学歯学部教授I. Zipkin

博士の来朝を機に、上田、竹内、田熊三教授の主催にて、一月二十五日(火)午前一〇から正午まで本学会議室において、『魚体蛋白質』と題して講演を行なった。学内外の多数の聴講者があって盛会であった。

博士の来朝を機に、上田、竹内、田熊三教授の主催にて、一月二十五日(火)午前一〇から正午まで本学会議室において、『魚体蛋白質』と題して講演を行なった。学内外の多数の聴講者があって盛会であった。

◆人 事◆

講師昇任

助手 西田康彦(市病歯科) 44、11、1

助手 柳川一征(保存) 44、12、16

助手 磯 泰己(保存) 44、12、16

講師新任

織田 正也(市病内科) 44、11、1

武藤 暢夫(市病耳鼻) 44、12、16

非常勤講師新任(44、10、17)

渡辺 甚一(口外)

前田 耕道(市病歯科)

副手採用(44、10、16)

山中すみへ(衛生)

助教授松井 一郎(市病産婦) 44、10、20

講師 井沢 敬介(市病耳鼻) 44、11、30

講師 木下 正道(保存) 44、12、31

助手 吉井 敦子(保存) 44、9、29

助手 山口 忠臣(麻醉) 44、10、31
副手 宇谷 和重(薬理) 44、12、31

▽学位受領者紹介△

中村 武君 昭和三十三年 日大工学部卒、三十四年東歯大微生物学教室に



入室(助教授)米沢和一教授の指導を受け、金沢大学医学部に論文提出。四十四年十二月三日付医学博士の学位受領。主論文「口腔内嫌気性ヘパリナーゼ産生菌に関する研究」金沢大学医学部十全医学雑誌第七八巻第五号。主査金大医西田尚紀教授。



春厚 肇君 昭和三十五年 卒口腔病理学教室主論文「ヒト象牙質齲蝕に関する顕微X線法による研究」歯科学報第69巻7号 指導および主査は松宮誠一教授

お願い

同窓で、他の大学で学位を受領された方々の紹介も致しております。氏名、卒業年度、主論文及び発表誌、受領年月日、主査、写真を同封してお知らせ下さい。

4つの色調で広範囲な用途
カラープロテクトセメント

歯髄保護と同時に永久合着裏装に好適
非膜度が薄く、前装歯に賞用されます。

京東・渋谷 ネオ製業工業株式会社

◆包装◆

ライトイエロー	30g	¥ 280
ジンジバルブラウン	30g	¥ 280
ライトグレー	30g	¥ 280
ゴールデンブラウン	30g	¥ 280
液	50g	¥ 200
1セット		¥ 1,200

—なにが・どれに・どれほど効くか— 歯科におけるビタミン剤について

後 藤 潤

私達の診療でビタミン剤はどのような目的で、どのような疾患に使われ、どれほどの効果が得られているのでしょうか。

ビタミン剤が一般に使用されている疾患は口内炎、三叉神経痛、顔面神経麻痺のようですが、これらの疾患にどれほどの効果があげられているかを考える前に、これらの疾患とビタミンとがどのような関係にあるのかを考えねばならないと思います。

口内炎：口内炎に関する詳細は本号福武講師の項に書いてありますので、ここではビタミンと関係のあるものについて述べます。ビタミンが欠乏した場合、口内炎としては口角炎、糸状乳頭の萎縮の形をとる舌炎、それから発赤、乾燥、落屑、皸裂という口唇の症状が主でアフター性潰瘍という形をとるのは少ないと思われまふ。このような症状は普通成書にはビタミン B₂ (以下V. B₂ と略) 欠乏症と書かれていますが、これは主としてV. B₂ が欠乏した場合という意味で、他にビタミンB₆ (以下V. B₆ と略) とかニコチン酸やその他のビタミンも欠乏していると考えべきだと思います。従ってその治療にあたっては福武講師が書いていますようにV. B₂、ニコチン酸等を主とした複合ビタミン剤を投与すべきだとえます。しかし今日日常生活においてビタミンが欠乏するということとは考えられるのでしょうか、このことについては後でふれます。

三叉神経痛、顔面神経麻痺、神経痛と称される疾患にビタミンB₁ (以下V. B₁ と略) の大量療法が行なわれてきました。また現在でもある場合には使用され、効果が得られているようです。確かにV. B₁ が欠乏した場合脚気がおこるのは衆知の事実であり、また多発性神経炎が生じる場合もあります。V. B₁ はこのような欠乏症状に効果があるのは当然ですが、他の神経疾患でもその薬理作用を期待して用いられているのだと思います。またビタミンB₁₂ (以下V. B₁₂ と略) も同様な理由で使用されます。しかしながら私達がV. B₁ を三叉神経痛に使用しましてもそれほどの効果が得られません。またV. B₁₂ の方は疼痛発作の比較的弱いタイプには効果がみられるが、疼痛発作の強いタイプには効果が期待出来ません。その他末梢循環の改善による効果を期待してニコチン酸の投与も試みられます。顔面神経麻痺に関しても一般に、V. B₁、V. B₂ の薬理作用に基づき使用されているようですが、これも実際に使用してみてもそれほどの効果はありません。顔面神経麻痺の原因は外傷、ヘルペス、神経鞘の浮腫、炎症等があげられます。ビタミン剤は前二者には勿論効果は乏しく、神経鞘の浮腫と考えるならステロイドホルモン剤等が主剤であってV.

B₁、V. B₁₂はやはり補助的な意味で投与すべきであると考えます。

以上極めて簡単ですが口内炎、三叉神経痛、顔面神経麻痺とビタミンとの関係をみてきたわけですが再び普通の生活をしている人にビタミン欠乏状態がみられるかどうかを考え、そして三つの疾患のビタミン療法を述べたいと思います。食物や薬物として摂取されたビタミンは生体内においてV. B₁ にしろV. B₆、V. B₁₂ にしろATPによってエステル化され補酵素型となっはじめて活用されます。従って充分にビタミンを摂取していても発熱によってビタミンの消費量が増加している場合や、テスト化等のビタミン代謝障害をおこす疾患、例えば肝硬変、糖尿病、副腎皮質機能障害、その他蛋白欠乏があった場合にはビタミン欠乏の症状が出ることは考えられます。このことから新陳代謝の盛んな乳幼児の熱性疾患の場合はビタミン欠乏状態が考えられるので、ビタミン剤の投与は必要であろうと思います。また成人においてビタミン欠乏様の口内炎がみられたとき上記の疾患をまず疑ってみることも必要と思われまふ。またそのような疾患が疑われたとき所謂遊離型のビタミン剤を投与しても無駄で、補酵素型のビタミンを使用すべきだと思います。補酵素型のビタミンは別表に示しました。補酵素型のビタミンは内服では破壊されるという説もありますので、注射をおこなうべきだと思います。

以上の他に私達が抗生物質を投与したときビタミン欠乏様の口内炎が生じる場合があります。この成因には腸内細菌叢の変化があげられていましたが根拠がなく、現在ではエステル化障害、酵素に対する抗生物質の阻害作用(例えば補酵素が Apo 酵素と結合するところを抗生物質が阻害すること)が挙げられております。従って抗生物質を投与しているとき上記のような口内炎が生じた場合、潜在的にビタミン欠乏をおこす疾患があるのではないかと考えると共に速やかにビタミン剤を投与すべきであろう。

表 補酵素型ビタミン剤

	商品名	1日量
V. B ₁	カルボキシン (山之内)	} 5—10mg
	ヌトラーゼ (杏林)	
V. B ₂	フラビタン (山之内)	} 5—10mg
	アデフラビン (共立)	
V. B ₆	ヒドキサール (中外)	10mg
V. B ₁₂	カロコイド	神経痛に対して 1週間に2—3 回1000γ

(口腔外科学教室・助手)

◎支部のうごき

豊橋豊徳会総会

総選挙と一緒になつた四十四年の暮れは、例年になく慌しい。十二月十四日(日)に、市内松葉町の吾妻家で「忘年会」をかねての総会が開かれた。型の如く庶務会計報告が当番幹事によって行はれ、異議なく承認された。今日の最大の議事は、明春三月一ぱいで任期満了となる愛知県歯科医師会長の選挙の件である。

十月から十一月にわたる各大学のこれに関する情勢の報告を基盤に、東歯大が、一宮市の滝義胤君を推挙し、ご本人の認承も得た現時点で選挙対策に「絶対必勝を期す」ための具体案に関するものである。西村禎裕会長の指示に従い、各個が可能な限りの努力を誓い合い、十数年にわたる大歯大の会長から母校東歯大の会長誕生を期した。立候補予定の滝先生も来豊され、心候のご披があり、愛知県(の三支部連合会)の対策委員長の夫馬嘉男先生から、詳細な全県下の情勢報告もあり、水道橋精神を今こそ發揮して、新風を捲きおこそうと出席全員の応援方の要請があった。

引続いて「年忘れの宴会」が、同じ会場で催された。西村会長の「来春もよい年を迎

えられますように」との挨拶で、乾杯で幕あき。当番幹事の配慮でキレイドコもあって、にぎやかなこと。緊急な発意で、豊橋市歯科医師会長の件については、同窓のなかで、加藤一郎君を推せんいた

したいとの議に、一同万雷の拍手で、賛成の意志表示すること再度にわたった。が、加藤氏から、「考える時間を貸して欲しい」との簡単なあいさつ。二時間余りの楽しい時間は、余りに早くすぎ去り、和気あいあいのなかに、滞りなく今年度のすべての行事は終わった。(彦坂記)

十年会

大正十年卒
昭和四十五年度総会は次の通り決定

- 一、会期 五月十五日(金)より二泊三日
- 一、会費 金二万円也
- 一、コース 東京駅八時三十分集合

九時出発、泉岳寺——歌舞伎座又は国立劇場にて、歌六襲名披露興業見物——河口湖富士レックホテルに泊——富士スバルライン經由——富士五合目——山中湖——白糸滝等見物の後、熱海南明ホテルが大月ホテルに泊、総会——翌十七日元箱根より遊覧船にて湖尻——ケープルカーにて早雲山に至り小田原を経て、東京椿山荘にてお別れパーティーの後、午後六時頃解散。

クラス会だより

此の企画は鈴木録二君の用意周到な努力によるもの、久保田君、石原君と小生が介添役として、全国会員多数の参会を希望する。布川君の令息捷二君が交通社に在る為、一方ならぬ骨折りを煩はした。(白須賀記)

壬戌会

大正十五年卒

物故会員慰霊祭
昨年十一月九日、上野公園内護国院に於て級友四十九名の追悼慰霊祭を執行。会員は遠く九州、東北より二十四名参集、さらに会員の家族の参加があり、御遺族も左記の方々が御参列になり盛なるうちに極めて厳肅なる法要を取行なうことが出来ました。次で別会場に於て永眠された学友の在りし日を偲ぶアルバムを囲んで憶出話の数々つきるところがなく一同感



三郎、松元彰丸、道巖、谷本聡、鈴木貞一、谷園輝、石原啓明、古川忠夫。(幹事 古川記)

一志会

昭和十七年卒

今年のクラス総会は、母校の創立八十周年、血腸先生生誕百年祭が今秋、東京で開催されるので、その時期に東京で開催することが以前から決定されています。大阪での万博見物を兼ねた一志会開催はしないことにきまつていました。

その後、総会とは別に万博一志会をいう声が、今頃になって耳に入ってきました。今では到底無理だとは思いますが、長谷川が近日二回大阪に出張するので、一応大阪在任の諸兄に様子をきいてくることにしました。

つぎに、昨年くれのクラス会で児玉君がクラス代表評議員を辞任したいとの申し出がありました。突然なので、すぐ後任を決めかねましたので、人選は幹事会に一任ということになっています。近日、幹事会で慎重に相談します。

十六会

昭和十九年卒

全員各位には人生の花咲りの意義深い新春を迎えられ、決意を新

クラス会だより

たに夫々責任ある本年のスタートを切られたことを祝福します。さて、昨年十一月八日(土)には、既報の卒業二五周年記念祝賀会を静岡県伊豆長岡温泉伊豆ホテルで盛大に開催することが出来ました。静岡組の中原現幹事、世話人として木村、栗原両兄等の種々の御配慮は出席者全員に満足感を与えて下されたものと厚く御礼申し上げます。今度は会場の関係で奥様方の御参加を得られなかったのは一末の淋しさがあつたとはいえ、半年前の北海道総会参加者を実数的には上廻る実に五十名の正会員の参加を得たことは、この日の為に心をくだいて鋭意準備をした幹事及び各係の役員十六会を思いう発露の表れと何ものにも変えがたい欣びで一杯です。誰かが言った、死ぬ迄には一度でも出てきて顔を見せてくれよな! と本当にワッと叫びたくなる様な気持ちになるほど和気霽々の雰囲気に含まれた風景は誠に得難いものでした。掲載の写真(上段左より以下この順)城所・増村・小沢・鈴木(保一)・坂本・伊藤(寿久)・横山・金子・篠原・白井・片山・金沢・水野(敏郎)・大村(春夫)・本間・沢田・福本・菊地・木村・三島・関根・石塚・河村・村田・



中原・坂・西条・森岡・武田・村・小沼・児玉(正義)・栗原・山根・高瀬・山口・森田・佐藤(暁)・本山・小宮山・鈴木(貞夫)・河合・青・伊藤(隆)・井川・飯田・工藤(勤)・菅原・成田・元津の諸兄。当日は折角のホテル自慢の眺望も曇天の為訝えなかった

が、北から南から卒業二五年の歴史を帯して続々参集する元気な顔を相見ても、お互いに心から祝福し合つたものです。この日午前中にマニアの為にゴルフを楽しめる様に態々設営されたのですが、この方は予想に反して参加者が少く係とを失望させましたがおかれは話し合う方に重点をおかれたものかと察せられます。集合時間五時には大体揃つたので、ロビーにお集り願ひ七月開催された同伴十八組を交えての豪華な北海道総会旅行の紹介を飯田撮影のミリ映写により感銘を新たにしたりして、中原幹事の司会により二五周年記念式典開会、万事万端抜かりなく計画した管が、いざ本番となると、開宴の六時にくい込む仕末で、色々手ぬかりがあり、卒業二五周年記念誌の印刷に献身的に尽力見事に仕上げて頂いた技秀堂深沢社長に十六会より感謝状を作製小沢印刷係に当日態々御携帯頂いたのに、之を披露するのを忘れ誠に慚愧に堪えません。この感謝状は同月二三日の十六会幹事会の席上同社長を招聘して贈呈せしことを御報告申し上げお詫びに変える次第です。

而し、坂本会計幹事により、三九年度以降の年度会費の清算の結果、果実各位の御理解によって予期以上の成果があつたとの中間報告に参加者一同をアッと驚く為五郎! にしてくれたのは秀逸で、今後の我が会の運営がやりやすく

なるというものです。大体八割の方が完納とのこと。改めて坂本大兄の尽力に大謝します。その他種々記念行事に対する経過報告があつた後、昨年の北海道総会で承認を得た会則に則り、十一月より次期幹事の三名の指名があり、予め快諾を得た横山・白井・本間(席順)の三君が紹介された。向う二年間の御活躍を願ひ、満場一致拍手の下に決定されました。来年の総会は万博開催の大阪近郊で開こうとの原案も豊中市の片山君の万博の資料を持参されての紹介で、一同拍手を以て賛同決定されました。(期日はその後の同君始め大村(林木)・工藤(均)君等の御世話により、来年八月二十九日(土)箕面観光ホテル一泊での連絡が金沢幹事にありました。詳細は後日大阪組の世話人方から各位に通報される筈ですが、どうか今から多数同伴で参加されます様計画して下さい)。式は前述の次第で和やかに終り、ここで車で運んで来た待望の会誌二五周年記念号と、予約申込み制の記念品金杯の配布がされ、直ちに席をレコー

ドによる校歌のメロデー流れる大宴会場に移し綺麗どころのお酌で祝賀懇親会を開幕、会場係苦心の余興やら福引やらで大いに楽しみ、時の経つのも分らぬ程、喜び満ち溢れる面々の影に立ち廻る幹事役の苦勞は亦大変なもので、散会後は、街に出るもの、部屋で再会を祝して懐旧し、中には折角の学生時代を懐かし、中には折角の温泉に入るのも忘れる人もあり、翌日の朝食前の記念撮影には、なかなか揃わずテンヤワンの一幕もあり、その賑やかなこと、かくも大成功裡に午前十一時来年の関西における再会を約して散会した。終りにこの二五周年記念行事に色々と御協力願つた各係の方々、に深甚なる感謝の意を表します。十六会の益々の隆盛を祈ります。(幹事長 飯田記)

次号原稿×切り
は三月十五日

発行所 東京都千代田区三崎町二丁目九番十八号

東京歯科大学同窓会

電話東京(二六)三三三二(代)振替七六九〇四番

編集兼発行人 渡辺富士夫